



講話を聞く園児たち

尻子玉抜かれるぞ カッパ伝説で水難防止

紀北町立ふなつ幼稚園(植松康樹園長、12人)で24日、「民話を聞く会」と題した水難防止のミニ講話があった。

水遊びシーズンの前に毎年開かれるもので、今年で14回目。NPO法人ふるさと企画舎理事長で、海山めだかの学校の校長でもある船津在住の田上至さん(53)を講師に迎え、船津地区に伝わる民話「番太淵のガタロ(河太郎)」を通して、水遊びの注意点を学んだ。

民話では、番太淵でいたずらを働いていたカッパのガタロが、船津村永泉寺の和尚に説教をされて反省。以後、「オーラ船津の子」と声を掛けながら水に入ると、水難を避けられたと伝えられている。

田上さんは「今日はガタロを呼んでみます」と言って演台に隠れ、カッパのカツパやくちばしをつけて再登場。カッパの好きな食べ物キュウリと魚であることや、お尻の近くにあつてカッパに抜かれるとふぬけになり溺れてしまうとされる「尻子玉(しりこたま)」を紹介し、尻子玉を抜かない方法として「子どもたちだけで川や海に近づかない、水辺で危ないことをしない」の2点を呼び掛けた。

ガタロの話を怖がって泣き出す園児も居たが、田上さんは「怖いと思うことも大事。水辺でふざけていたらガタロが来るんだぞ、と覚えてください」と話し、園児たちと安全に遊ぶ約束を交わした。